

令和3年度授業力ブラッシュアップ研修会（小学校・算数）

今年度の授業力ブラッシュアップ研修会は、授業改善の視点として示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業はどうあればよいかをテーマに提案授業及び講義演習を行いました。今号は小学校算数の研修内容について紹介します。

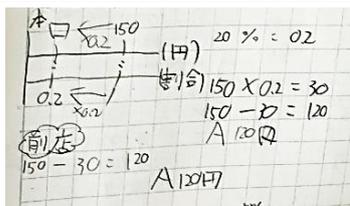
《部会テーマ》 数学的な見方・考え方を働かせ、主体的に学習に取り組む児童の育成 ～評価場面を明確にした単元の指導を通して～

プロジェクトチーム	授業の概要	学年・単元名
奥州市立胆沢第一小学校 岩渕宏紀 教諭 奥州市立水沢小学校 濱田成樹 教諭 奥州市立南都田小学校 藤原美理 教諭	◇活用問題 単元末「いかしてみよう」 2店舗のパン屋の値引き条件（○円引き、□割引）を理解し、条件によって値引きされる値段が異なることを学び、日常生活に生かそうとする態度の育成をねらった授業	第5学年 割合 『比べ方を考えよう(2)』 授業者：岩渕 宏紀

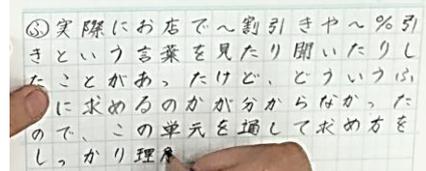
【視点1】単元の最終場面であることから、これまでに身に付けた数学的な見方・考え方を課題解決に生かした児童の姿となっているか

【視点2】割合の考え方を日常生活に生かそうとする児童の態度が高まったか

○前時で学んだ「割引」の考え方を授業前段で確認し、「2割引きってどういうこと？」の問いに対し「20%分を引く」「80%残る」といった見通しから「自力解決→学び合い」へとつなげました。また、数直線を利用して正しく立式し、値引き後の値段を求める児童の姿が見られました。



○振り返りを書く際の視点を「この単元を通して、どんな見方・考え方が身に付きましたか？」としたことで、この時間だけでなく、既習の学びと関連付けて振り返る児童の姿が見られました。また、日常で目にする割引の表示に対し、本時の学びを生かそうとする態度も育ちました。



振り返りを書く際に、これまでのノートを見返し、単元の学びを改めて確かめています。

200を1とみるとき
10は0.8にあたる

基準量と比較量の関係を捉えている児童の姿から、これまでに身に付けた割合の見方・考え方を生かして金額を比較していることがわかります。

【助言・講義】（県南教育事務所 指導主事 小野寺良明）

- 終末時点で「結局どっちの店で買えば…」といった、パンの種類（もと値）や店舗（値引き条件）によって割引きされる金額が異なることで悩んでいる児童がいた。ここから、日常場面を想定して考えていることがうかがえる。
- 本単元で必要な既習事項が身に付いているかを図る目的を焦点化したレディネステストを作成し、その結果から見えた学級の課題を解決するために、実態に即した単元計画を吟味したり授業の展開を工夫したりすることができた。
- 前時と本時の2時間をまとまりとみて『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料をもとに、「思考・判断・表現②（割合を日常生活の場面に活用して解決している）」を「指導に生かす評価」、「主体的に学習に取り組む態度②（割合を用いて比べることのよさに気づき、日常生活に活用しようとしている）」を「記録に残す評価」と設定した。これにより学びの積み重ねを意識した指導をしているか、また、主体的に学習に取り組み、学びを積み重ねた成果が表れているかといった「指導と評価の一体化」が図られる単元及び評価計画となる。
- 本時の目標を「どのような数学的な見方・考え方を働かせて」「どのような数学的活動を通して」「どのような数学的に考える資質・能力を育成するのか」の3観点に沿って表現することで、目指す児童像及び指導の柱が明確になる。



研修者レポートから（抜粋）

- * 「同じ2割引きなのにパンによって値段が違うのは？」など思考を深める発問により、働かせたい見方・考え方に迫ることができた授業だった。
- * 使わせたい、考えさせたいことを指導者が意識し、評価規準を明確にすることが大切だと感じた。
- * まとまりで見取り適切に評価することで、指導者の授業改善や児童の学習意欲の向上につながる。
- * 毎時間の振り返りだけでなく、振り返りの視点を与え、単元の中に意図的に書く時間を設け、児童の理解度を見取っていきたい。